

マ・サ・カ

川口基督教会牧師 司祭 ステパノ 柳 時京

昨年8月のある日、家内とともに車で近所に出かけた帰宅途中のことです。新なにわ筋を西長堀の方から進み、中央大通りの交差点で信号を違反してしまい、警察に捕まりました。普段はここを直進して西郵便局前を日生病院の方に左に曲がりますが、この日は一つ手前で青信号の時に左折したことで失敗しました。ここは左折の矢印信号もあるところだったので。警察の手招きに従い車線の端に車を止め、助手席の窓を開けると、警察官に運転免許証の提示を求められました。しかし、「はい」と答えたものの、実は私のポケットには免許証が入った財布がありませんでした。近所で、短時間で済む用事なので、財布を持たないまま出かけていたのです。「しまった」と嘆いたところ、結局、信号違反に加えて、免許証不携帯の反則まで加わり、相当な反則金を出すことになってしまいました。思いかけずに国庫を増やしたわけです。

しかし、これだけで済んだわけではありませんでした。警察から「本人の確認が出来ない」と言われたのです。幸い、携帯電話のポケットに挟んでいた名刺を見せ、家内が同乗していたので、同居の家族であることを伝えることができました。ただ、私たちの場合、結婚しても別姓のままなので、警察側はどうしても本人の確認をしなければならないと言いました。やむを得ず、免許証不携帯なので車は動かせず、家内を車内で待たせたまま、警察官とともに牧師館に向かいました。教会に着いて、鍵で玄関のドアを開けて牧師館の書斎に入りました。私の陳述通り、近所の教会の牧師であること、その中の牧師館に住んでいること、牧師館の机に免許証の入った財布があること、同乗者も確かに夫婦関係にあることなどを、警察官が確かめたうえで、無事、私は車に戻り、帰宅することができました。いつも自分のバックをしっかりと持ち歩く家内の目尻がかなり上がったその日以来、私たちが出かける際には、次の三点セットを確認するための合言葉を決めました。その一は「マスク」、その二は「財布(免許証)」、そして最後は「鍵」で、覚えやすく「マ・サ・カ」としました。また「マサカ」のことが起こらないように。そして、コロナ禍のなかでぼーっとせず、しっかりと目覚められるように。

「目をまっすぐ前に注げ。あなたに対しているものにまなざしを正しく向けよ。

どう足を進めるかを計るならあなたの道は常に確かなものとなる。」(箴言4:25~26)